

立教大学学術推進特別重点資金（立教SFR）
プロジェクト研究（単独プロジェクト研究）
2007年度研究【経過・成果】報告書

研究所名	立教大学 ラテンアメリカ研究所	
研究課題	ブラジルにおける日系移民資料の分析・保存とデジタルアーカイブ構築： 移民百年の軌跡	
研究代表者	所属・職名	氏名
	立教大学・文学部・教授	丸山 浩明 印
研究組織	所属大学名等・職名	氏名
	(研究分担者) 立教大学・観光学部・教授 立教大学・学校-社会教育講座・教授 立教大学・ラテ研・研究員 立教大学・ラテ研・研究員 ブラジリア大学・外国語翻訳学部・助教授 JICA 横浜移民史料館・研究員 (研究協力者) 慶応大学・DMC 統合開発機構・講師 慶応大学・DMC 統合開発機構・写真師 慶応大学・メディアセンター・職員 関西学院大学博士課程大学院・院生	豊田由貴夫 山浦 清 岩田 晋典 中村 茂生 根川 幸男 小嶋 茂 遠山 緑生 山口 真里 西山 洋介 渡辺 伸勝
研究期間	2007 年度	
研究経費	3,960 千円	

研究の概要 (200~300字で記入, 図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究は、ブラジルにおける日系人移民百年の歴史を、文書や写真、地図、言説など多様な資料から解き明かすと同時に、その資料群をデジタルアーカイブとして保存・活用するシステムの構築をめざすものである。2007年度は、ブラジルの代表的な国策移住地の一つであるサンパウロ州バストス移住地を主な研究対象地に選定し、日系コミュニティが辿った歴史や、その中で生きぬいてきた移住者の個別のライフストーリーやファミリーストーリーを系統的に収集・分析した。また、「山中三郎記念バストス地域史料館」に収蔵されている膨大な移民関係資料のデジタル化とメタデータ登録を実施し、これらのデジタルメディアコンテンツを活用したデジタルアーカイブの制作に着手した。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

{ ブラジル } { 日系移民 } { デジタルアーカイブ }

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

本年度の研究成果は以下のものである。

1. サンパウロ州バストスにおける日系人コミュニティの実態調査

本プロジェクトでは、日系人移民 100 年の歴史を解き明かす試みとして、事例となる日系コミュニティの歴史や日系人の文化・アイデンティティの変容について詳細な実証研究を行うが、それに先行して対象となるコミュニティの実態分析がまずは必要不可欠である。そこで、これまでにブラジルで大規模に実施された日系人実態調査を参考に（それらとの比較研究も今後可能となるように配慮した）、独自のアンケート票を作成し、現地の日系人団体の協力を得つつ、バストスで本調査に臨んだ。調査は 2007 年 9 月に 3 週間かけて実施され、最終的に 104 名の日系人から有効なアンケート票を回収することができた。その結果、バストス市の日系人について、1) 基本的属性、2) 日本との関係、3) 地域日系コミュニティへの関わり、4) 民俗・風習と意識、5) 言語使用状況、6) 教育、の 6 つの側面に関する諸特性が明らかになった。さらに、本調査結果に分析を加えたものを、立教大学ラテンアメリカ研究所報第 38 号に「サンパウロ州バストス市における日系人コミュニティの実態調査」として発表した。今回の調査結果は、個人レベルでの生活実態や意識的特徴から、コミュニティレベルでの文化・言語の動態までを把握する重要な基礎資料であり、次年度にカンポグランデで実施される同様の調査との比較検討から、現在のブラジル日系人コミュニティの実態が浮き彫りになることが期待される。

2. バストスの日系人コミュニティと事例家族のファミリーヒストリーに関する実証研究

バストスにおける日系人コミュニティの歴史を、事例家族の詳細なファミリーヒストリーを軸に描き出す試みの一つとして、「水本家」を取り上げて調査・分析を行った。「水本家」は、岡山県出身の移民家族であり、バストスでの生活を経た後、サンパウロに再移住し、商業分野で大きな活躍を遂げた一族である。換言すれば、農村生活から都市生活へと移行することで人生を開拓した移民家族の一例であり、それはブラジル日系移民史における一つの巨大な必然的流れでもあった。本研究では、詳細な聞き取り調査にもとづき、写真資料なども積極的に活用して、農村から都市へと再移住していく社会・経済的背景や、その具体的戦略などを細かく解明した。これまでの調査で、「水本家」のライフヒストリーに関してはほぼ調査・分析を終えており、今後、「都市化したバステンセ（バストス住人）」の全体像の中に「水本家」の事例をしっかりと位置づける作業を経て、研究成果の公表を行う予定である。また、その成果を今回収集した写真や映像などのデジタルメディアコンテンツを利用してアーカイブ化すべく、その構想を進めているところである。

3. ブラジルにおける移民関係資料の保存状況とネットワーク・コンピュータ環境の調査

2007 年 9 月にバストスおよびサンパウロにおいて、日系移民関係資料の保存状況ならびにデジタル化の成否に直結するネットワークおよびコンピュータ環境の実態調査を行った。また、調査地であるバストスでは、膨大な移民関係資料が所蔵されている「山中三郎記念バストス地域史料館」において、実際にデジタル化を進めるためのコンピュータ環境の整備を行った。そのなかで、以下のような問題点や課題が浮き彫りとなった。

- ・地方都市でのデジタル化作業は、当初の予想よりもより貧弱なコンピュータ環境やネットワークを前提として、作業工程やその公表方法を再検討する必要がある。
- ・日本側とブラジル側の双方からアクセスしやすい形でアーカイブを提供すべきである。
- ・資金面などを考慮すると、アーカイブとしての継続性を維持するために、なるべく運営費用が低い形でシステムの構築を検討すべきである。
- ・目録などの整備状況が貧弱であり、資料整理自体と並行してデジタル化作業を行う必要があるため、既存の目録情報に基づいたメタデータ登録が不可能ある。メタデータの収集

研究成果の概要 つづき

と登録自体をアーカイブ化と並行して行えるようなシステムの構築が必要である。

そこで、本年度はこれらの問題に対応できるようなデジタルアーカイブシステムのあり方について技術的な検討を行った。当初、Web 公開用のサーバのうち、データ収納部分などもすべてプロジェクト専用の機材を準備して提供する事を想定していたが、上記の問題点を踏まえ、なるべくインターネット上で比較的安価に利用できるストレージサービスなどと組み合わせた形でシステムを構成する方法について再検討している。また、メタデータの登録について、専門家がすでに整理している事を前提としたモデルではなく、デジタル化した資料を公開すること自体を先行させ、公開された資料に対してメタデータを事後的にも収集・登録・追加できるシステム構成についても検討している。

4. 「山中三郎記念バストス地域史料館」の移民関係資料のデジタル化とメタデータ登録

多くの移民関係資料が所蔵されている「山中三郎記念バストス地域史料館」において、その代表的な史料をデジタル化し、あわせてメタデータの登録を行った。日本に持ち帰って行った作業も含め、今年度にデジタル化が完了したものは以下の通りである。

- ・大型地図パネル 7 点 → 使用機材：Canon EOS-1Ds Mark II (有効画素数 1670 万画素)
- ・ガラス乾板写真 7 点 + 外箱 → 使用機材：EPSON GT-X750
- ・水野龍の『笠戸丸航海日記』 31 ページ分 → 使用機材：EPSON GT-X750
- ・『バストス 10 年史』 → 使用機材：Phase One H25 (有効画素数 2200 万画素)

以上、上記の史料館に関しては、合計 1308 点の写真画像をデジタル化した。

5. 「サンパウロ移民史料館」の移民関係資料のデジタル化とメタデータ登録

ブラジルを代表する日系移民史料館である「サンパウロ移民史料館」において、現地スタッフに対するデジタル化講習会も兼ねて講義と作業を行い、所蔵されている貴重な写真資料をデジタル化し、あわせてメタデータ登録も行った。今年度にデジタル化が完了したものは以下の通りである。

- ・写真集『目でみるブラジル日本移民の百年』に掲載されている写真 43 点
(裏面の手書きの書き込みも含めて計 70 カット)
- ・『ブラジル情景写真帖』(渡航から独立農になるまでの経緯) 84 点
- ・『植民地風景バストス』 27 点 (裏面の手書きの書き込みも含めて計 28 カット)
- ・『ファゼンタバストス写真帖』 39 点 (裏面の手書きの書き込みも含めて計 50 カット)
- ・その他ガラス乾板や戦前の写真 33 点 (裏面の手書きの書き込みも含めて計 41 カット)

以上、上記の史料館に関しては、合計 226 点の写真画像をデジタル化した。

6. カンボグランデの移民関係資料の収集・デジタル化とメタデータ登録、ならびに事例移民のファミリーヒストリー研究

次年度の主要な調査地域となるカンボグランデにおいて、予備調査も兼ねて移民関係資料の収集とそのデジタル化を開始した。その結果、カンボグランデの移民史『あゆみ』作成時に収集された 75 点の写真、ならびに移民家族を直接訪問して収集した写真 77 点の、合計 152 点のデジタル化とメタデータ登録を行った。また、事例家族が所蔵するパスポートなどの史料(32 カット分)をデジタル化した。さらに、カンボグランデの最初の入植者子孫を対象とし、そのファミリーヒストリーを詳しく聞き取り、同時にビデオ映像により記録した。それを日本に持ち帰り、ポルトガル語訳・日本語訳のテロップにつけ、現在デジタルアーカイブを制作中である。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名, 論文標題, 雑誌名, 巻号, 発行年, ページ)
- ②図書 (著者名, 出版社, 書名, 発行年, 総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名, 開催日, 開催場所)
- ④その他 (学会発表, 研究報告書の印刷等)

① 雑誌論文

渡辺伸勝：サンパウロ州バストス市における日系人コミュニティの実態調査．ラテンアメリカ研究所所報，第36号，2008，19-47．

根川幸男：サンパウロ市リベルダーデ地区における戦前・戦中期の日系教育機関—エスニックコミュニティ母語学校としての役割に注目して—．龍谷大学経済学論集，第46巻5号，2007，147-163．

NEGAWA, Sachio：O Japão no Brasil. Humanidades, Vol 54, 2007, 35-42.

② その他(学会発表・講演会・新聞記事など)

根川幸男：ブラジル，サンパウロ東洋街の形成と変容．2007年6月29日，立教大学アジア地域研究所・ラテンアメリカ研究所合同講演会

根川幸男：ブラジルにおけるエスニック日系新伝統行事の創出—七夕祭りの再創と展開を中心に—．2007年6月24日，第17回日本移民学会大会（於：大阪商業大学）

根川幸男：ブラジル近現代史における「日本文化」表象．2007年9月20日，第32回日文研国際研究集会（於：国際日本文化研究センター）

遠山緑生：移民研究データのデジタル化とインターネット上のアーカイブ．2007年9月14日，ブラジルサンパウロ市国際交流基金サンパウロ日本文化センター講演会

遠山緑生：自律分散的なデジタルアーカイブシステムの研究．2007年11月22～23日，慶應義塾大学 SFC Open Research Forum 2007（於：六本木アカデミーヒルズ）

遠山緑生：ブラジル日系移民研究におけるデジタルアーカイブの可能性．2007年11月19日，MLA+L デジタルアーカイブの連携とその可能性ワークショップ（於：慶應義塾大学三田キャンパス）

その他，以下のブラジル現地新聞に当プロジェクト研究に関する記事が掲載された。

1) ニッケイ新聞(現地日本語紙)

<http://www.nikkeishimbun.com.br/070727-61colonia.html>

<http://www.nikkeishimbun.com.br/070912-61colonia.html>

<http://www.nikkeishimbun.com.br/070921-62colonia.html>

2) サンパウロ新聞(現地日本語紙)

http://www.spshimbun.com.br/content.cfm?DO_N_ID=17931

http://www.spshimbun.com.br/content.cfm?DO_N_ID=18860

http://www.spshimbun.com.br/content.cfm?DA_N_ID=10&DO_N_ID=18726

3) ニッポ・ブラジル(現地日本語紙)

http://www.mundonikkei.com.br/nikkei/nikkei_141.php

4) A Hora(現地ポルトガル語紙) (Web上の掲載は無し)

5) JORNAL NIPPO-BRASIL(現地ポルトガル語紙) (Web上の掲載は無し)

